

# 日本百街道紀行

街道とまちづくり

第52回

山陽道(西国街道)

## 街道が交差し 人々が行き交うまち 姫路

姫路市長(兵庫県)

清元秀泰



### 情報の十字路口 姫路

私たちの「ふるさと・ひめじ」は、かつて播磨国と呼ばれた兵庫県南西部に位置し、古くから政治・文化の中心地として栄え、世界文化遺産・姫路城と共に、旧城下町の面影が残る歴史的なまち並みや、海・山・川などの豊かな自然、多彩な農水産物に恵まれている。また、臨海部には全国有数の工場群が立ち並び、ものづくり産業が集積する商工業都市として発展し、近年は、近隣の7市8町と形成した播磨圏域連携中枢都市圏の中心市として、圏域をけん引する役割を担っている。

播磨国は当時の首都圏である畿内から見ると、隣接はしているが「遠く離れた畿外の国」であり、畿

外から見ると都に最も近い「ほぼ畿内の国」という二面性を持っている。この二面性から、播磨国には東西南北いずれの方向からも道が通じ、ヒト・モノ・カネが行き交う「情報の十字路口」が形成され、



世界文化遺産・姫路城

これらの道が西日本はもちろん、列島全域の文化交流・経済発展を支えてきた。

その中でも、姫路を東西に貫く最大の動脈である山陽道は、日本初の官道「古代山陽道」がそのルーツであり、近畿と北九州を結ぶ官道として整備された律令国家最大の幹線道である。近世になると西国街道とも呼ばれ、参勤交代の大名行列や荷物を運ぶ飛脚、行人などが盛んに行き来する五街道に次ぐ重要な街道となった。

山陽道8カ国のうちで最も畿内に近い播磨は、時代を経るにつれて西国交通路の要衝として栄え、中でも近世姫路のまちは江戸時代初期に築かれた姫路城の城下町として、山陽道(西国街道)を往来する人々でにぎわい、産業・経済・

文化・観光など全ての面で、当時から有数の都市として知られている。

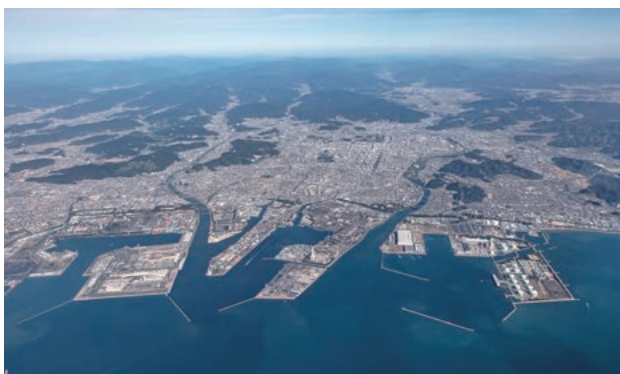
### 山陽道と国道2号

古代山陽道のルートは自然環境の変化、中世的なまちの形成、瀬戸内海航路の発展、蒙古襲来に伴う道路整備などさまざまな要因から変遷してきたとみられる。さらに、近世(江戸時代)に至ってから、城下町の建設、河川の付け替えや補修、宿駅整備などの要因からそのルートは変遷しているが、市内には今なお名所・旧跡が存在し、かつての面影を残している。山陽道はどの時代においても近畿と北九州を結ぶ重要な道であり、その役割は現代の山陽道ともいえる国道2号へと受け継がれている。



今も残る西国街道の面影

国道2号は明治から昭和初期にかけて、阪神間の産業発展とともに物資流通面で重要な国道として整備されてきた。また、第2次世界大戦後の経済復興期を経て、昭和32年に播磨地域が播磨工業地帯に指定されるなど、経済成長を果たした姫路の重要な交通網の中核を担ってきた。経済成長に従い広域交通が増加すると、国道2号の交通量は飛躍的に増加し、自動車専用道路である国道2号バイパス



企業が立ち並び姫路の臨海部

の整備が進められ、人々の生活にとって重要な役割を果たしている。  
**これからの道路整備**  
 国道2号や国道2号バイパスの恩恵を受け、姫路市の臨海部には、世界・国内シェア1位の製品を生み出す製造拠点が立地しており、播磨ひいては日本の成長を支えている。しかしながら、製造業の発展とともに国道2号バイパスなどの東西を結ぶ道路交通量の増大により、渋滞が慢性化し、経済面や観光面に悪影響を及ぼしている。こうした問題を解決するた

め、神戸市西区から本市の臨海部を経由し太子町を結ぶ延長約50kmの「播磨臨海地域道路」が計画されている。この道路の整備により東西交通の渋滞が緩和され、播磨の製造業がさらに活性化することが期待される。さらに近年、激甚化・頻発化している風水害や南海トラフ地震をはじめとする巨大地震などから人々を守る「いのちの道」と

しての役割にも期待している。かつての山陽道がそうであったように、道はいつの時代でも人々の生活に欠かせないものであり、「いのち」と「くらし」を守ってきた。先人たちが残してきた歴史と教えを守りながら、新たな時代に柔軟に対応し、人々の未来に灯りをともすまちづくりを進めてみたい。

## 山陽道(西国街道)

### 一口メモ

### 姫路藩五十二万石の城下町は山陽道の要

江戸時代、西国街道とも呼ばれた山陽道は、京都(東寺口)を発し



て西国(下関、九州)へ至る重要な幹線道であった。古代山陽道の経路を踏襲しており、姫路市には御着、姫路の二つの宿場が置かれていた。

播磨国の要衝の地・姫路には、徳川家康の娘婿である池田輝政が入府。その格式にふさわしい城として姫路城が造られ、城下町が整備された。それに際し、城の南を通っていた山陽道を北側の城下に引き込んだといわれている。

姫路は、池田家以降も徳川家と縁の深い本多家、榊原家、松平家、酒井家により治められた。

企画協力…全国街道交流会議「街道交流首長会」